

食品廃棄物発電を支援

三井住友F.L.設備一式をリース

三井住友ファイナンス & リースは、食品廃棄物を燃料源としたバイオガス発電の支援事業に参入する。メタンガスを取り出す発酵槽や発電機などの主要設備一式を発電事業者に丸ごとリースする。最初の案件として、東京都羽村市に建設する発電所を巡り、このほど契約を結んだ。地産地消に適した分散型電源が増えるとみて、日本全国で事業を展開していく。

事業スタートアップのアイキアエナジー(東京・港)が羽村市に建設する出力1100キロワットのバイオガス発電所の支援だ。一般家庭2100世帯分の電力を賄うことができ、総事業費35億円のうち22億円分に相当する設備をリースする。2020年7月の稼働を予定する。発電した電気は全量を電力会社に売電する。

周辺の食品工場やスーパー、コンビニエンス

ストアなどから出る食品ゴミを回収し、発酵させて得られるメタンガスを燃やして発電する。

1日あたりのゴミの処理能力は80トで、全国で約50カ所ある同様の発電所の中でも上位5位に入る規模だ。コンビニエンスストアから出る食品廃棄物は1日あたり約15トンとされ、単純計算でコンビニエンスストアのゴミを処理できる。発酵後の残りかすは堆肥として農家向けに販売する方針だ。

三井住友F.L.は売電やゴミの受け入れ費用など、事業そのものから得られる収益で資金を回収するプロジェクトファイナンスの手法をとった。

このノウハウを使って全国展開する考えで、既に第2弾を中部地方で計画している。

第1弾の案件は、発電

所は

2020年7月の稼働を予定している(東京都羽村市)



羽村バイオガス発電所は2020年7月の稼働を予定している(東京都羽村市)